

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100694		
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホーム ひなげし		
所在地	群馬県高崎市高浜町1027-11		
自己評価作成日	令和6年6月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=1072100694-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事等必要時は、車椅子から椅子に移乗をしてもらう、日中はトイレで排泄をしてもらうなどして、残存機能が保てるようにしている。
季節ごとのイベントや季節ごとのレクや外出などを職員で考えて、楽しみを持った生活ができるように務めている。
今後は地域の方と一緒に野菜作りや花を植えるなども考え準備をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

トイレでの排泄は利用者が何より希望することであり、職員は排泄が人の尊厳に関わる行為であることを理解した上で、利用者がいつまでもトイレで排泄できることを願って自立支援に取り組んでいる。利用者によって夜間はおむつを使用したり、安全のためセンサーを導入し、自らトイレに行く利用者を見守り、利用者の自尊心や羞恥心に寄った支援をしている。また、車椅子はあくまで移動手段の一つであることから、車椅子の利用者が席につく際は椅子に移乗し、テーブルとの高さ調整や、利用者間に配慮する他、立上り、立位保持等によって力をつける工夫をしている。共用空間を掃除する利用者もあり、その意思を尊重し見守り続ける等、利用者の残存能力を活かし、本人本位の支援に取り組む様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示、職員一人一人に理念を配布している。職員会議で唱和を行い、理念を再認識して実践できるように努めている。	手書きの理念を携え再確認に努め、法人の研修で理念にある「尊厳」について学習している。ホーム長は地域密着と利用者ができることを支援する内容を盛込んだ新しい理念の作成を考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議などで連携を図り、交流できるように努めている。	コロナ禍から現在まで、地域との交流は難しい状況にあるが、今後はボランティアの受け入れや地域から協力が得られるよう努め、以前の状態に戻る取り組みを検討している。	コロナ禍前の交流が戻るよう、今後計画を立てて、地域に働きかける取り組みをしてはいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの資料をご家族や地域の方に配布することで理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をしている。近況報告などを行い意見を交換をすることでサービス向上に繋げていけるようにしている。	家族、区長、民生委員、支所の担当者が出席し、対面で開催している。グループホームの現状報告、行事活動報告、ヒヤリハット報告等を通して意見交換をしている。議事録を全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を配布することで協力関係を築くようにしている。また、法人の担当部課長などが訪問している。	法人の部長が市との連絡、相談、報告を担当し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員会議での事案で取り上げて学び、理解をして実践に繋げている。 玄関の開錠についてはリスクなども踏まえて検討していく課題。	事業所が道路に面しており交通事故のリスクや不審者の侵入が予測されるため、玄関は施錠している。職員会議で身体拘束について勉強会を開き、身体拘束をしない支援につなげている。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、短時間でも開錠できるよう工夫し、外に行きたいという利用者には付添って外に出る支援に努めてはいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで学び、意見交換を行いながら日々、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用または利用を必要とする入居者は居ないが、必要となった時に慌てないように関係者と話し合い活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、不安や疑問点の確認を行っている。また、不安や疑問点があった時や必要時にその都度、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や連絡時などに対応をしている。玄関に意見箱の設置をしている。	家族からは面会の際、意見や要望を聴いている。すでに面会は解除となり、居室への入室を許可したり、LINEでのリモート等、家族の要望を反映させている。利用者からの訴えは特にみられない。	家族に利用者の生活の様子を知らせる手段がないので「ひなげし新聞」を再開したり、写真と利用者への個別の支援を文章にして渡す方等を検討してはいかがか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で意見や提案を聞いている。意見や提案を実際に行うこともしながら、継続するかしないかの意見などを聞きながら実践に反映させている。	職員全員の出席を基本とした職員会議を毎月行っている。ホーム長が代わり、職員は確認をしながら支援をしている状況にある。仕事を続けていくための要望を普段から聴くよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ前は人事考課などで話をする機会もあったが、現在は担当部課長を通して職場の環境条件・条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修の担当者を決めるなどして働きながらの研修を行っている。アプリによる研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修があれば各事業所に周知し、同業者と交流する開会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族など含め事前に見学に来て頂き、不安なことや要望などお聞きして、助言なども含め心配事や不安なことが少して軽減できるように対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や来苑時に要望や希望を傾聴し、入居までの期間も不安なことなど、連絡を頂ければ何時でも対応させていただくことを伝え、サービス開始までに良い関係作りができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の意見や要望を踏まえ、何が必要かを考え希望に添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴などを把握し、ご本人のことを知り、気持ちや意思を尊重しながら見守りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来苑時や電話なので近況を伝え、変化があったことに関しては相談をさせて頂いている。親戚の方や知人なども面会ができることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも緩和され、自由に面会、外食、外泊などができるようになったことを知らせている。	近所の人や親戚の訪問があり、家族から面会の承諾を得て実施している。また、家族と外出の際自宅に寄って来る等、馴染みの場所や人との関係性、趣味や家事の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルや危険なことが無いように声掛けや見守りを行い、必要に応じて職員が介入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談事などがあれば対応できる環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活状況を見ながら、言葉にできないことは表情や行動の変化に気を付けながら希望や意向の把握ができるように努めている。	ケアマネジャーが入居時に利用者、家族の思いや意向を確認し、その把握に努めている。また、ケア記録やカンファレンス時の報告から利用者の状況や変化の把握に努め、計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当していたケアマネジャーなどやご本人やご家族からお話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々に記録や観察、カンファレンスなどで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行いプランの見直し、状態の変化などを検討。ご家族にも説明をし要望・希望を確認。ケアマネジャー、医師、ナースとも必要に応じた連携を取っている。	毎月ケアマネジャーがカンファレンスに出席し、職員のモニタリング結果やケア記録の情報をとりまとめている。3ヶ月ごとに介護計画を見直し、その際担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を行い日々に様子や変化を職員が把握し、情報交換をして、話し合いをして介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の変化や気持ちを汲み取り、要望や意向に沿えるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族と一緒にできる行事や地域の方に野菜作りのボランティアをお願いしているところ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	豊岡クリニックの先生に4週間に一度往診の来てもらい、緊急時・体調の変化があった時には電話対応、受診、往診などをお願いしています。往診時などの様子をご家族に伝え意見なども聞いています。	入居時に協力医かかかりつけ医かの説明をしている。現在は全員が協力医の4週ごとの往診を受けている。他科目の受診は家族が付添っている。歯科は検診後、要治療の場合週1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に週1回の訪問、特変時などは電話連絡などで対応、必要時にはその都度、訪問をして対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当者やご家族と連携を図り、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、運営推進会議で看取りの資料を配布しご家族に理解をして頂いている。看取りの支援が必要となったご家族には改めて説明を行う。	看取りの実績もあり、協力医の協力を得て希望があれば実施している。契約時に終末期対応について説明をし、その後段階的に説明をすることになっている。現在、看取り希望者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自主訓練などで緊急時の対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回、消防署立ち合いのもと避難訓練を行い、自主訓練で避難経路や避難場所の確認を行い、備蓄の管理をしている。	年2回の消防署立会いの総合避難訓練と毎月、自主訓練を避難経路等を模索しながら実施している。BCPマニュアルも整備されている。食糧、水、排泄用品等を日付を確認しながら備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や人格を見極め、自尊心を損ねてしまわないように注意をはらい適切な言葉遣いを心がけている。	自立者に対して職員から声かけをする、本人がわかってもできなくなっていることを支援する等自尊心を保つ対応を心がけている。利用者間の相性も考慮に入れ、ストレスの軽減を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様、お一人お一人に配慮した声掛けや対応をして自己決定ができるようにしている。また、自己決定が困難な方には表情や仕草などから読み取り意向に添える努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせずご本人の意思を尊重して個々の思うように過ごして貰えるような環境づくりに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回のヘアカット、月1回のハンドマッサージの時、希望に応じてネイルを楽しんだり、ご自身で買物に行き衣類を選んでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜などを取り入れた食事提供ができるように心かけている。	週6日は届いた食材を調理し、毎週月曜日は献立を考え手作りで提供している。誕生日会のケーキ等の行事食やお節、豆腐の餅等伝統食、時季の食事を楽しむ工夫をしている。	毎週月曜日にお好みドリンクを用意しているように、普段から徐々に利用者が希望する飲み物を提供し、選択の機会を設ける取り組みを検討してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録に残し個々の摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、磨き残しがある方については介助を行っている。訪問歯科による口腔内の治療・相談・助言等の指導をもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などをで排泄のタイミングを把握してトイレ誘導、入居者様個々の状態に合わせた必要物品の準備や介助を行っている。	日中は全員がトイレで排泄し、職員は誘導や見守りをしている。夜間は3名がおむつ、4名がセンサーを使用し、利用者に適した介助を行っている。失禁した際は職員からの声かけを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量の確認、乳製品や植物繊維の多いものを調理に取り入れたり、体操やレク等の実施。また便秘気味の方にはナースや主治医への連絡報告相談し対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を実施。個々のペースに合わせた入浴をして頂けるように努めている。	火・水・金・土曜日のうち週2回の入浴を基本としている。利用者からの申し出は難しくなっているので職員から声かけをしている。また、アセスメントの情報により在宅時の状態を鑑み、対応している。	前日入浴した利用者にも声かけをし、いつでも入浴できるといった情報を提供し、入浴する、しないを利用者自身が選択できる取り組みをしてはいかかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のペースで居室で休んで頂いたり、夜間は室温の調整をして安眠できるように心かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし確認できるようにしている。内服が変わった時には職員に伝え様子観察を行い症状に変化があればナース・主治医・薬剤師と連絡を取り支持を貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人にあった手伝いや、希望に沿ったレクができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ができる機会を多くできるように努めている。季節に沿ったドライブや散歩ができるように努めている。	雑誌や衣服を購入するため毎月個別で買い物に行ったり、桜を見に行く等、外出を支援しているが、今後は日常的に野菜作りで外に出たり、地域の公園に行くことも検討している。	コロナ禍で外に出ないことが習慣化することがないよう、利用者、家族の希望に沿って、日常的な外出の機会を設けることに取り組んではいかかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、必要な物を購入したり一緒に買い物に出かけ支払いを一緒に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には面会や電話、テレビ電話など何時でも可能な旨を伝えている。入居者様から電話などの要望があれば対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と季節に合った物を作成し掲示したり、共有の空間は清潔を保つようにしている。日差しはカーテンで調整をしている。	利用者がぬり絵や計算問題をし、食後はテレビを観たり、居室で休む等、高齢者の生活場所として静かな共用空間となっている。利用者が玄関ホールを掃除する等、清潔を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや椅子などを自由に移動できるようにしている。孤立しないように職員が介入をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談をして使い親しんだ物、愛用品などの持ち込みは可能なことは伝えている。	エアコン、ベッド、クローゼットが用意され、馴染みの寝具や衣服、日用品、ラジオ等を持っている。やや殺風景ではあるが、共用空間でほとんどの時間を過ごすためであり、清潔で整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは分かりやすいように掲示をしたり、出来ること、分かることはして頂けるように個々にあった声掛けや見守りをして自立した生活が送っていただけるように努めている。		